がん対策推進企業アクションフィロソフィー

がんと向き合い、社員と会社をさらなる高みへ

がんは、命のかけがえのなさと生きる意味を教えてくれる病気です。
がん対策推進企業アクションは、職場でのがん対策が、社員と会社をさらなる高みへ導くと信じています。

会社員の死因の約半分はがん。
女性と高齢者が会社に増えるなか、「はたらく人をがんから守る」ことが求められています。
がん対策推進企業アクションはその先頭に立ちます。

職場でのがん対策は、社員と家族を守るとともに、会社の発展にもつながります。
企業文化の成熟度のバロメーターと言えるでしょう。がん対策は、まちがいなく、「経営課題」です。

すべて無料で利用可能です、是非ご登録ください。

[がん対策啓発ツール]

●「働く人が がんを知る本」

がんに関する知識やがん検診の重要性について学べるA5判の小冊子。従業員数分（上限あり）を無償にてご提供します。

●メールマガジン

企業・団体の担当者に定期的にがん対策の最新情報をご提供します。

●ポスター

従業員へがん検診受診を啓発するツールとしてPDF データをご提供します。

●学習支援ツール

がんに関する正しい知識を、企業で働く人に「時間や場所を問わず」学んでいただけるよう、e-leaning型の教材をご提供します。

●ニュースレター

がん対策の最新情報をわかりやすく PDF データでご提供します。社内の啓発ツールとしてご活用いただけます。

[YouTubeチャンネル「オトナのがん教育」]

教えて 中川先生！

がんって何？
がんになっても働けますか？

2020年10月から、がん対策推進企業アクションの公式YouTubeチャンネルがスタートしました。
がんについて気になるポイントをわかりやすく簡潔にまとめています。
毎月新動画配信中。

推進パートナー簡単登録

https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/about/registration.html
推進パートナー登録は右記の手順で簡単に行うことができます。

1.HPにアクセスし、規約に同意して登録申請フォームへ入力。
2.事務局にて確認後、登録手続き。(7日～10日程度で完了)
3.登録手続き完了後、登録証などをお送りします。

厚生労働省委託事業 がん対策推進企業アクション事務局
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目6-11花門ビル3F
Tel:03-4446-5324 E-mail:gantaisaku-info@e-webinar.net Facebook:@gankenshin50

がんアクション 検索

別添11

厚生労働省委託事業

がん対策推進企業アクション　ひと、くらし、みらいのために 厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

あなたの会社と従業員を"がん"から守る"

企業アクションは国のプロジェクトです

年間約95万人ががんになる時代。がんにり患した4人に1人が、20～64歳の働く世代です。
企業として従業員の健康、とりわけ「がん対策」は重要な経営課題です。
働く人の視点にたち、企業アクションは様々なサポートをします。

企業アクションの2大使命

がんになっても働き続けられる社会へ

● 今年は行こう 今年も行こう がん検診

① がん検診受診率アップ

早期発見なら
約9割が完治することから、
受診率の向上を目指します。

● がんでも、やめない、やめさせない

② 治療と仕事の両立支援

がんになった従業員がいても企業ぐるみで支え、種々の方策を提示し支援します。
経営側と従業員のがんリテラシーの向上がポイントになるため、「がんを知る－オトナのがん教育」にも力を入れています。

約8,400社・団体が参加しています

企業アクションへの新規登録（参加）は、ここ数年間1,000社を超えています。
小規模企業から大企業まで多種多様な企業・団体が企業アクションに関心をもっています。
がんの最新情報と参考になる資料、啓発ツールが無料で得られます。

企業アクションの主な啓発活動

1. 全国各地でセミナーを開催（がん専門医・がん経験者・知事等が登壇）
2. 小冊子「働く人が がんを知る本」を無償提供（従業員への配布数、累計500万冊突破）
3. 自治体と連携して多角的に啓発推進（東京都や大阪府など）
4. 働く女性をがんから守る Working RIBBON運動を展開
5. 東大・中川医師のYouTubeを配信

パートナーの皆様へ協力いただいていること

パートナーの皆様には、eラーニングの活用等を通じて健康意識を高め、職場内のヘルスリテラシー向上にご協力いただいています。また、国のがん対策へ活かすための基礎資料として、パートナーアンケートへのご回答・ご意見の提供にもご協力いただいています。こうした一つひとつの取組みが、自社の従業員を守ることはもちろん、他の企業や社会全体のがん対策へとひろがり、「がんになっても働き続けられる社会」につながります。

子宮頸がん検診（HPV 検査単独法）を受ける前に知っておくこと

HPV 検査単独法による子宮頸がん検診は「子宮頸がんの罹患率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診として国が推奨しています。早期発見、治療で大切な命を守るために、30 ～ 60 歳の女性は 5 年に 1 度、繰り返し HPV 検査単独法による子宮頸がん検診を受診し、「要確定精検」「要追跡精検（検査）」という結果を受け取った場合には必ず本リーフレットに記載した該当する検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんや前がん病変が見つかるわけではありません。がんや前がん病変でなくても「要追跡精検」や「要確定精検」と判定されることはあります。また、HPV（子宮頸がんを引き起こすウイルス）が陽性であっても自然に消失することもありますし、前がん病変の中には放置しても治癒してしまうものも多いため、結果的に不必要な検査や治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

子宮頸がん検診の利益（子宮頸がんにかかることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検診結果にそった次の検査の受診を守りましょう。

子宮頸がん検診は、子宮頸部の前がん病変と
子宮頸がんの発見を目的としています。
その他の疾患の発見は目的としていません。

詳細はこちらをご覧ください。
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/cervix_uteri.html

子宮頸がん検診の流れ

受付（受診券等の提示、質問票の記入）

問診（症状※があれば報告）
※月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など

子宮頸部の細胞採取（HPV 検査）

- ✓ HPV 陰性 精検不要
- ✓ HPV 陽性 要精検

HPV 検査の残りの検体で行います

トリアージ精検（細胞診）

- ✓ 将来、子宮頸がんや前がん病変が発生するリスクがある 要追跡精検（検査）
- ✓ 子宮頸がんや前がん病変の疑いあり 要確定精検

必ず受けてください

- 1 年後の追跡精検（検査）（HPV 検査）
- 直ちに 確定精検（コルポスコープ下の組織診）

- ✓ 子宮頸がん・前がん病変なし
- ✓ 前がん病変
- ✓ 子宮頸がん

- 5 年後の検診（HPV 検査）
- 治療または経過観察
- 治療

- 前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合もありますし、治療をせずに医療機関で経過観察になる場合もあります。
- 確定精検で子宮頸がんや前がん病変が確認できない場合でも、HPV が陽性かつ細胞診での異常が確認できているため、基本的には検診には戻りません。

気になる症状がある場合

月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に、医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。

検診が受けられないかもしれない方

現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご相談ください。また、性交経験が一度もない方は HPV の感染の可能性も子宮頸がんにかかる可能性も低いので、利益は大きくありません。

子宮頸部の細胞採取（HPV 検査）

子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取り、HPV（子宮頸がんを引き起こすウイルス）の有無を調べる検査です。

＊月経（生理）中は避けて検査を受けてください。

トリアージ精検（細胞診）

HPV 検査のために採取した細胞の残りを使って、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。この検査のために再度医療機関を受診する必要はありません。

確定精検はコルポスコープ下の組織診

トリアージ精検（細胞診）で異常が発見されたら、コルポスコープ（腟拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。

追跡精検（検査）は 1 年後の HPV 検査

要追跡精検者は、検診の時点では子宮頸がんや前がん病変が発症している可能性は低いのですが、HPV 陽性が継続すると発症の可能性が高くなりますので、5 年待たずに、1 年後に検診の枠組みで HPV 検査を受けてください。

30～60 歳、5 年に 1 回、HPV 検査を繰り返し受けることで、子宮頸がんにかかることを防ぐことができます

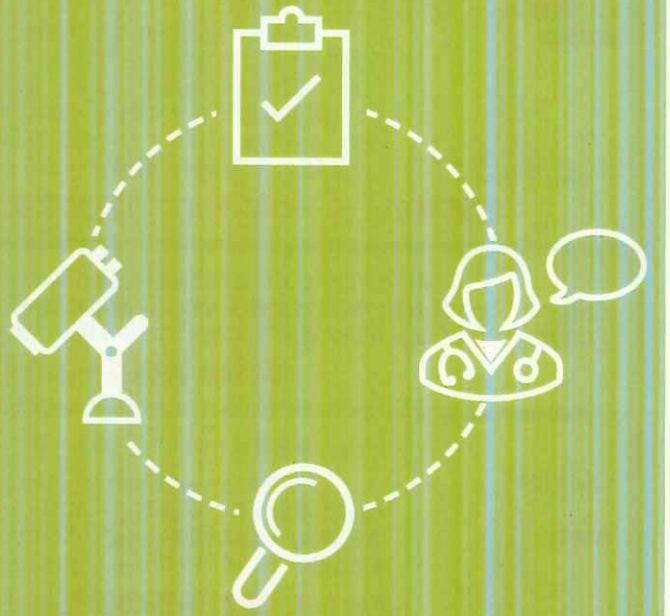
HPV 検査での子宮頸がん検診は、受けすぎると不利益が大きくなりますので、必ず 5 年に 1 度、繰り返しの受診を守ってください。また、5 年以上検診間隔が空いてしまうと子宮頸がんを防ぐ効果が下がってしまいますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。

別添10

子宮頸がん検診（HPV検査単独法）をこれから受ける方、受けた方へ

子宮頸がんについて

- わが国では女性のがんの中でも、かかる人が多く、特に 30 ～ 50 歳代で多いがんです。
- HPV 検査単独法による子宮頸がん検診は、HPV（子宮頸がんを引き起こすウイルス）に感染している方を見つけて細胞診を行い、がんや前がん病変を見つけることにより、子宮頸がんの罹患（かかること）を防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- HPV 検査単独法による子宮頸がん検診は、30 ～ 60 歳の女性が 5 年に 1 度、繰り返し受ける検査です。ただし、月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は、子宮体がんなどほかの病気のこともあります。次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- HPV 検査単独法による子宮頸がん検診には、利益（子宮頸がんにかかることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。偽陰性とは、がんや何段階かある前がん病変のうち、がんに近い段階の病変があるのに見つけられないこと、偽陽性とは、これらの病変がない、またはこれらの病変が発生しないのに「要追跡精検（検査）」や「要確定精検」と判定されることです。このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
- HPV 検査単独法による子宮頸がん検診で「要追跡精検（検査）」または「要確定精検」となった場合は、がんまたは前がん病変の疑いがあるので、必ず該当する精密検査を受けてください。
- 「追跡精検（検査）」は、検診の 1 年後に検診と同じように HPV 検査を行います。「確定精検」は、直ちに専門医療機関でコルポスコープ下の組織診を行います。



「子宮頸がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp

つくる を支える 届ける を贈る がん情報ギフト

国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で「確かな・わかりやすい・役立つ」がん情報をつくり、全国の図書館などにお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

発行：国立がん研究センターがん対策研究所　2024 年 9 月
協力：厚生労働科学研究費補助金「子宮頸がん検診における HPV 検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究」班

※＜市区町村の住民検診を受けられた方へ＞
がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。

子宮頸がん検診を受ける前に知っておくこと

子宮頸がんは罹患する人（かかる人）がわが国の女性のがんの中でも比較的多く、また 30 ～ 50 歳代 で多いがんです。国が推奨している子宮頸がん検診（子宮頸部の細胞診）は「死亡率、罹患率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、20 歳以上の女性は 2 年に 1 度繰り返し検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されることもあります。子宮頸がんは前がん病変も検診で見つけられるのですが、この中には放置しても治癒してしまうものも多いために、結果的に不必要な精密検査や治療を受けなければならない場合もあります。さらに、検査によって出血などが起こることがあります。

がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html

子宮頸がん検診の流れ

受付（保険証の提示、質問票の記入）

問診（症状※があれば報告）
※月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など

子宮頸部の細胞診

- ✔ 子宮頸がんや前がん病変の疑いあり → 要精密検査 → 必ず受けてください
- ✔ 子宮頸がんの疑いなし → 精密検査不要

精密検査
（コルポスコープ下の組織診、細胞診、HPV 検査など）

- ✔ 子宮頸がん → 治療
- ✔ 前がん病変 → 定期的な精密検査で観察
- ✔ 子宮頸がんなし → 2 年後の検診

前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う場合もありますし、治療をせずに医療機関で定期的に経過観察になる場合もあります。

気になる症状がある場合

月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。また、現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご相談ください。

子宮頸部の細胞診

子宮頸がん検診は子宮頸部（子宮の入り口）を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取り、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。

＊月経（生理）中は避けて検査を受けてください。

子宮頸部をブラシで擦り、細胞を取って顕微鏡で見る

精密検査はコルポスコープ下の組織診、細胞診、HPV 検査の組み合わせ

細胞診で異常が発見されたらコルポスコープ（腟拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。また、細胞診の結果によっては HPV 検査を行い（子宮頸がんを引き起こすウイルスの有無を調べます）、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。

子宮頸部を拡大鏡で見る

20歳以上になってから、2年に1回、細胞診を繰り返し受けることで、子宮頸がんで亡くなることを防ぐことができます

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず 2 年に 1 度、くりかえし検診を受けてください。検診は受けすぎると不利益が大きくなりますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。

別添９

子宮頸がん検診(細胞診)
をこれから受ける方、受けた方へ

子宮頸がんについて

- わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、特に 30 ～ 50 歳代で多いがんです。
- 子宮頸がん検診で早期に発見して治療することにより、子宮頸がんで亡くなることを防ぐことができます。また、前がん状態も見つけることにより、子宮頸がんの罹患・死亡を防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- 子宮頸がん検診は 20 歳になったら 2 年に 1 度、子宮頸部の細胞診を繰り返し受けてください。ただし、月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は、子宮体がんなどほかの病気のこともあります。次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 子宮頸がん検診には利益（子宮頸がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。
  偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけられないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。
  利益が不利益を上回るように受けることが大事です。
  このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔、検査項目）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
- 子宮頸がん検診で「要精密検査」となった場合は子宮頸がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査はコルポスコープ下の組織診･細胞診･HPV 検査などを組み合わせて行います。

「子宮頸がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

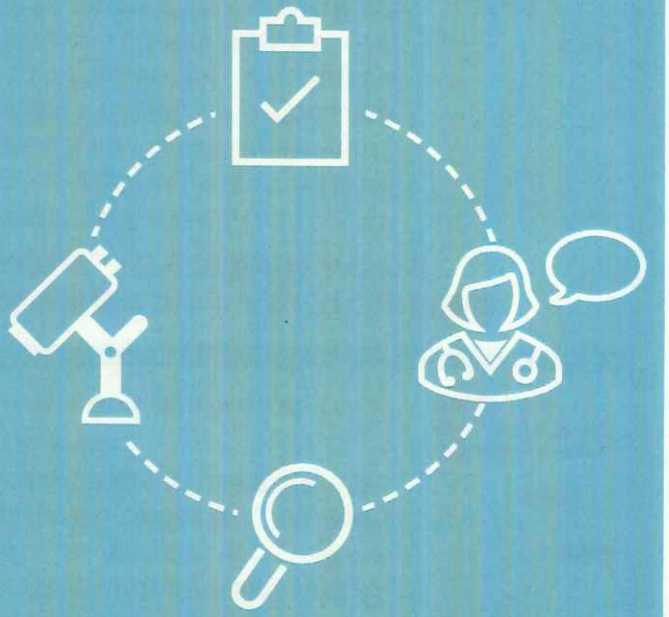
国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp

つくるを支える 届けるを贈る がん情報ギフト

国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で「確かな・わかりやすい・役立つ」がん情報をつくり、全国の図書館などにお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

発行：国立がん研究センターがん対策研究所　2024 年 4 月
協力：厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班
国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班

※<市区町村の住民検診を受けられた方へ>
がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。



乳がん検診を受ける前に知っておくこと

乳がんは罹患する人（かかる人）がわが国の女性のがんの中でも多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。国が推奨している乳がん検診（マンモグラフィ）は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、40 歳以上の女性は 2 年に 1 度繰り返し検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために、不必要な治療を受けなければならない場合もあります。

がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。
https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html

乳がん検診の流れ

受付（保険証の提示、質問票の記入）

↓

問診（症状※があれば報告）
※しこり、乳房のひきつれ、乳首から血性の液が出る、乳首の湿疹やただれなど

↓

マンモグラフィ

- ✓ 乳がんの疑いあり 要精密検査
- ✓ 乳がんの疑いなし 精密検査不要

↓ 必ず受けてください

精密検査
（マンモグラフィ追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診）

- ✓ 乳がん → 治療
- ✓ 乳がんなし → 2 年後の検診

気になる症状がある場合

マンモグラフィでは見つけにくい乳がんもあります。早期の乳がんは自覚症状がないことが多いですが、しこり、乳房のひきつれ、乳首から血性の液が出る、乳首の湿疹やただれなど気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ずお伝えください。症状がある場合は、乳がん検診を待たず、すぐに乳腺外来のある医療機関を受診してください。

マンモグラフィ

マンモグラフィは小さいしこりや石灰化を見つけることができます。乳房を片方づつプラスチックの板で挟んで撮影します。乳房が圧迫されるため痛みを感じることもありますが、圧迫時間は数十秒ほどです。また放射線被曝による健康被害はほとんどありません。月経前 1 週間を避けて受診すると比較的痛みが少ないと言われています。

- 視触診検査は推奨されていませんが、マンモグラフィとの併用に限り行われる場合があります。
- 現時点では、マンモグラフィと超音波を同時に受けたり、2 年毎のマンモグラフィ検査の間に超音波検査を受けることは推奨されていません。

精密検査について

マンモグラフィ追加撮影
疑わしい部位を多方面から撮影します。

乳房の超音波検査
超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

針生検下の細胞診、組織診
疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうかを診断します。

40 歳になってから、2 年に 1 回、マンモグラフィを繰り返し受けることで、乳がんで亡くなることを防ぐことができます。

乳がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず 2 年に 1 度、繰り返し検診を受けてください。検診は受けすぎると不利益が大きくなりますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。

別添８

乳がん検診を
これから受ける方、受けた方へ

乳がんについて

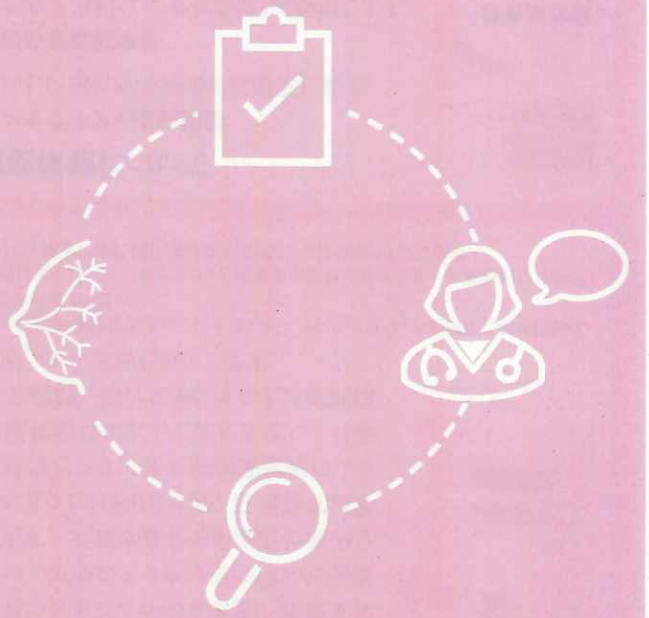
- わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 乳がん検診で早期に発見して治療することにより、乳がんで亡くなることを防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- 乳がん検診は 40 歳になったら 2 年に 1 度、マンモグラフィを繰り返し受けてください。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳首から血性の液がでる、乳首の湿疹やただれなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 乳がん検診には利益（乳がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。
  偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけられないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。
  利益が不利益を上回るように受けることが大事です。
  このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔、検査項目）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
  マンモグラフィと超音波の併用は、乳がんで亡くなることを防ぐ科学的根拠が不十分なため、推奨されていません。
- 乳がん検診で「要精密検査」となった場合は乳がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- 精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。

「乳がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター
がん情報サービス ganjoho.jp

つくるを支える 届けるを贈る
がん情報ギフト

国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で「確かな・わかりやすい・役立つ」がん情報をつくり、全国の図書館などにお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

発行：国立がん研究センターがん対策研究所　2023 年 12 月
協力：厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班
国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班

※<市区町村の住民検診を受けられた方へ>
がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。